

(公表用様式)

業務再点検結果報告

組織名	東北農政局平鹿平野農業水利事業所	連絡先	0182-35-7781
所管する業務の概要	国営雄物川筋土地改良事業 (S21 ~ S55) で造成された用水施設の改修を行い、用水の安定供給と維持管理費の軽減を図る。併せて、営農の合理化・複合化を促進し、生産性向上と農業経営の安定を図る。		

1. 基本的な心構え・行動	
<p>・現在行っている取組や工夫</p> <p>・職員に対し接遇研修を行うのは基より、臨時職員に対しても接遇マニュアルを配付し、レベルの向上を図っている。</p> <p>・月2回の定例会(専門官以上)及び課内会議を開催し、業務点検及び懸案事項について意識の共有を図っている。 ・月1回所内勉強会を開催し、事業に対する知識を深めると共に、公務員としての自覚を再認識している。</p> <p>・直接の利害関係のない方々に対しても、事業計画や実施の必要性、事業の果たす役割等について、専門的用語を使わず、国民的視点に立ったわかりやすい言葉で説明を行っている。事業目的が消費者の利益に一致することについても極力説明するよう心がけている。</p>	<p>・点検によって得られた課題とその改善策</p> <p>・接遇レベルの更なる向上を図り、習慣化するため研修等を継続的に行い、定期的にチェックリスト等を用い自らを見直す時間を設ける。</p> <p>・担当業務の他、省全体の政策等や「ビジョン・ステートメント」の理解を深め、十分に活用するため、所内勉強会を引き続き行う。</p>

2. 政策・事業等の企画立案・推進

・現在行っている取組や工夫

・事業の実施状況や進捗状況等について、改良区・地域住民へ情報提供を行っている。また、国営事業実施状況写真展等の広報活動ではアンケート調査を行い、意見・要望等を工事実施に反映している。

・事業実施に向け、設計段階より用地課・工事実施課と調整を行い、情報の共有化を図っている。
・課題別に所内検討チームを設置し、問題の早期解決を図っている。

・地域で開催される催し物に積極的に参加し、また、事業関係者、一般市民、学生等による施設見学会を開催することにより、事業の内容・効果を説明するなど事業に対する理解が深まるよう努力している。

・点検によって得られた課題とその改善策

・全ての要望を事業に反映すると事業費の高騰につながる場合があるため、適切に対処できるよう、その重要性・必要性について所内で十分議論をする。

・当初設計で想定できなかった事態が発生した場合、各部署の連携がうまく行かない場合があるため、常に個々の業務に増して事業全体を見据えた業務上の配慮を優先させる心構えを共有する。

・こちらからの一方的な事業説明の他、地域の方々からの意見を広く収集できるように、イベント内容を工夫し、開催することを心掛ける。

3. リスク管理

・現在行っている取組や工夫

・問題発生を未然に防ぐため、日頃から何でも話せる職場環境作りに努めている。

・設計書等審査を厳密に（クロスチェック）し、単純なミスや勘違い等を防ぐようにしている。
・リスク管理については、定例会で定期的に分析・検証を行っている。

・潜在的なリスクを発見するため、外部からの情報があった場合は、所内関係部署で集まり分析等を行っている。

・点検によって得られた課題とその改善策

・今後は一部の職員だけでなく、全職員が問題を共有出来るよう、情報提供や意見交換の場を設ける。

4. その他の重要な取組	
・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化を図るため各部署の長は、各担当の業務分担やスケジュールを把握し、その都度調整を行い、業務の平準化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・依然として、各担当の業務内容及び業務量が、複雑かつ膨大であり、平準化が難しい状況であるため、担当部署にこだわらず横断的なチーム体制を取る等対策を講じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所玄関に目安箱を設置し、国民からの苦情・提案等広く収集している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情等はケースバイケースであり、対応基準の作成を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルエンザ対応として、玄関入口に消毒液を設置し、感染防止に努めている。 	